

- ❖ JAUNSは日本国際連合学会の英文名称、Japan Association for United Nations Studiesの略です。
- ❖ このニュースレターには学会の活動や会員の皆様へのお知らせを記載いたします。
- ❖ 学会へのご意見、ご質問などは事務局までお寄せください。

1. 理事長挨拶

昨年10月の日本国際連合学会理事会で大泉敬子前理事長からバトンを渡され、第7期理事長に就任しました神余隆博です。伝統ある日本国際連合学会の理事長という重責を担うことになりましたのは光栄の至りです。明石康初代理事長以下歴代の理事長のもとで脈々と受け継いでこられた伝統を守りつつ日本国際連合学会の活動を時代に則したものとし、より一層活発なものにしていきたいと思いますので、会員皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

今回初めて関西の大学の関係者である私が理事長に就任することになりました。関東だ、関西だという時代ではありません。国連からすれば関東も関西もないわけであり、国際連合学会規約にあります目的(国連システムの研究とその成果の公表及び普及)の実現にオールジャパンで積極的に取り組むために奉仕をすることが私の使命であると心得ます。

私は、外務省時代に国連に関連する業務に割と多く携わってきました。私の国連との最初の出会いは、外務省国連局軍縮課長に就任した時です。当時の国連の軍縮担当事務次長は明石康氏であり、同氏のご尽力により、日本で初めて国連軍縮会議を京都で開催したことを鮮明に覚えております。この会議が今日もなお続いていることは大変慶賀に存じます。その後、国連政策課長に就任し、安保理改革の提唱並びにPKO法案の国会通過、そして初めてのカンボジアへの自衛隊の派遣を経験しました。その際、明石康氏はカンボジアのUNTACの事務総長特別代表として大いに国連の名声を高めておられました。私はその後、国際社会協力部長として国連の経済・社会・開発・人道関係について取り組む機会を与えられ、さらにその後ニューヨークにおいて国連代表部大使(次席常駐代表)を務めました。安保理改革や北朝鮮のミサイル開発・核実験問題、拉致問題等に取り組みました。私がNYにいたのは一昔以上前の話ですが、これらは現在もなお未解決の問題として残されております。

今日世界情勢はこれまでの常識を超えるパターンで大きく変化しようとしております。「Gゼロ」世界と表現されたりしますが、リーダー不在の多極世界に突入しています。パックス・アメリカナが終焉し、パックス・シニカに向かうのであろうか、アメリカのトランプ大統領の就任により自国中心主義が世界の各地に蔓延するようなことでもなれば多国間主義(マルチラテラリズム)の未来はどのようなのであろうか、そしてその象徴である国連は存在意義を確保していくことができるのであろうかといった疑問と不安が頭をよぎります。これらの多くの疑問に対する答えは現時点ではまだ存在していません。覇権国とそれに挑戦する国の間で不安と猜疑心に基づく対立が現実の戦争となる、いわゆる「ツキディデスの罠」に人類が陥って大きな戦争が起きることはなんとしても避ける必要があると思います。

そのような不透明かつ不安な国際関係が支配する世界であるが故に、今こそ国連に付託された国連憲章の精神を国連とその加盟国が発揮すべき時に来ていると思います。本来その役割を率先して果たすのは、アメリカをはじめとする常任理事国なのですが、アメリカも中国もロシアもイギリスも単独行動主義をとっている現状で、常任理事国でなく、国連憲章上の旧敵国である日本やドイツのような敗戦国に自由な世界秩序の維持・促進が期待されているのは歴史の皮肉な巡り合わせと言えます。国連にとって決して追い風ではなく向かい風の時代に国連を等閑視することなく、その理想の実現に一歩でも近づけていく努力を日本はこれからも怠るべきではないと思います。

国連は特に近年、シリアや北朝鮮の問題で常任理事国の利害関係が絡む国際の平和と安全の維持において十分な役割を果たしてきておりません。新しい事務総長となったグテレス氏は私も外務省時代によくお会いをした方ですが、常任理事国に対しても率直にものを言い、国連に新風を吹かせてくれるような感じがしております。

日本国際連合学会は研究者の集団ですが、世界と国連の抱える様々な問題に関して国家と非国家主体がどのように取り組んでいくべきか、政策と理論の両面から適切なアウトプットが出せるような、よりインパクトのある学会になっていければと思います。

日本国際連合学会の諸先輩が築いてこられた日中韓の国連システムに関する東アジアセミナーは、日中関係、日韓関係がどのようになろうとも3国の国連研究者の集まりだけは続けていくべきだという信念のもとに既に16回継続されております。今年の第17回セミナーは、11月10日～12日に北九州市で開催される予定です。何かと問題の絶えない3カ国ではありますが、国連を切り口にした場合にこの3カ国は十分に話し合うテーマを持っており、対話と協力が可能であることをこのセミナーは実証してきております。私も何度か参加しましたが、これこそ国連の持つ意味ではないかと思えます。

本年7月8日には日本国際連合学会研究大会が大阪大学で開かれます。不透明かつ不確実な国際情勢の中にあつて国際連合の果たす役割について議論するまたとない機会になると思えます。全国の国連研究者が一堂に会して議論をしていただき、日本の国連研究が理論と実践の両方の側面からいっそう発展していくことを切に願って私の就任の挨拶といたします。どうかよろしくお願ひいたします。

2017年3月7日

日本国際連合学会理事長
神余隆博(関西学院大学副学長)

2. 第7期 第1回 理事会報告

2016年10月1日(土)に開催された第7期第1回理事会において、神余隆博会員が理事長に選出されました。各委員会主任および事務局長については、規約第16条および第20条に基づき、理事長が指名することを確認しました。

3. 第7期 第1回 運営委員会報告

2017年2月24日(金)に、第7期体制における最初の運営委員会が開催され、次の6名を委員とする運営委員会体制が整いました(敬称略)。

神余隆博(理事長)、久木田純(事務局長代行)、二村まどか(企画主任)、
高橋一生(渉外主任)、滝澤美佐子(編集主任)、秋月弘子(広報主任)。

また、第7期各委員会および事務局の構成、第19回(2017年度)研究大会の計画、2017年東アジア国連システムセミナーの計画(於北九州市)、『国連研究』第18号の進捗および第19号の計画、広報活動の計画などについて検討が行われました。

4. 各委員会の構成(敬称略)

第1回運営委員会において、以下の各委員会委員が承認されました。

企画委員会：二村まどか(主任)、清水奈名子、藤巻裕之、山本慎一、吉村祥子

渉外委員会：高橋一生(主任)、久木田純、庄司真理子

〈顧問〉内田孟男、長谷川祐弘

〈協力者〉大平剛、二宮正人

編集委員会：滝澤美佐子(主任)、上野友也、瀬岡直、富田麻理、本多美樹

広報委員会：秋月弘子(主任)、小山田英治、二宮正人

事務局：久木田純(事務局長代行)、真嶋麻子

5. 2017年度研究大会のお知らせ

2017年度研究大会は、**2017年7月8日(土)**に大阪大学・豊中キャンパスで開催されます。共通テーマを「国際秩序の変容と国連の役割」とし、大きな流れに直面する国際社会における国連の役割、国連研究の在り方について考える場とします。

午前中はパネルディスカッションを設け、「変革期の国連と国際協力の新たなパラダイム」について、マルチ・アクターの視点から議論します。

午後のセッションでは、「変革期における人道支援の課題」について、理論と現場、国連とマルチ・ステークホルダーの視点から考えます。

6. 2017年度研究大会「若手独立報告」セッションの募集について

研究大会において「若手独立報告」セッションを設けます。報告を希望される方は、下記に従ってご応募ください。報告テーマは限定いたしません。国連研究の新たな可能性を示す、意欲的な報告をお待ちしております。

①応募資格：大学院博士後期課程在籍者以上

②募集人数：最大2名

③応募要領

日本国際連合学会企画委員会主任・二村まどか (futamura☆hosei.ac.jp、☆を@に代えてご対応下さい)宛に、以下の内容を明記したメールをお送りください。

(a)氏名、所属・肩書き（博士後期課程在籍者は学年）、年齢

(b)連絡先（もっとも連絡のつきやすいEメールアドレスや携帯電話番号など）

(c)ご報告のタイトル

(d)ご報告要旨（800字～1200字程度。形式は問いません。なお、公刊済みの紀要論文等に基づいたご報告の場合は、その旨お書き添え下さい。必要に応じて関連業績をご提出いただく場合もあります）。

(e)その他、職歴、研究業績、その他業績など、ご報告に関連した参考情報があれば、適宜書き添えて下さい。

④締切り：2017年4月30日（延長する場合は、ホームページでお知らせします）

人数・テーマの重複等を勘案した上で、採否を決定いたします。採否決定にあたり、ご報告テーマについて補足説明等をお願いしたり、ご報告内容の修正をお願いしたりする場合がありますのでご了承ください。

7. 第17回 東アジア国連システムセミナーのお知らせ

今年の東アジア国連システムセミナーは、2017年11月10日（金）～12日（日）に北九州国際会議場で開催されます。

今回は、ポリシー対話の色彩を強め、アジェンダに方向性を与える Annotated Agenda 方式を採用します。ペーパーは数ページと短くし、かつ結論を中心とします。また、すべてのセッションを全体会合とし、できるだけ多くの参加者の発言を図ります。

“Call for Papers”等の詳細につきましては学会ホームページに掲載いたしますが、参加希望者は、6月末までに1ページのアウトラインを、9月末までには（アカデミック論文ではなく）最終のカンファレンス・ペーパーを、ご提出いただきます。

8. 編集委員会からのお知らせ

『国連研究』（第18号）「多国間主義の展開」は、新しい編集委員会の体制のもとで編集をすすめ、6月中に刊行できるよう努力をしています。楽しみにお待ちしております。この場をお借りし、ご執筆者の皆様、審査にご協力をいただいている多くの先生方のご尽力に深く感謝申し上げます。

次号（第19号）は、「人の移動と国連システム」（仮）を特集テーマとすることで企画が進められています。原稿募集については研究大会、学会ホームページ等でご案内をします。第19号への投稿の応募締切りは例年通り8月上旬になりますので、ご投稿をお考えの皆様にはご準備をぜひお願いします。

9. 渉外委員会からのお知らせ

①国際機関の長のプロフィール作成プロジェクト

Radboud University (オランダ) の Reinalda 教授を中心として、各国際機関の長のプロフィール作成プロジェクトが進行しています。現状では、日本をはじめアジア諸国からある程度の数の国際機関の長が出ているにもかかわらず、このプロジェクトで紹介されている人は少数です (日本については緒方貞子先生のみ)。

Reinalda 教授から協力依頼があり、渉外委員会でこの案件を扱い、庄司渉外委員が担当することになりました。このプロジェクトは、当学会の会員であれば参加可能です。

②2017年度 ACUNS 年次会議

今年の ACUNS 年次会議は、”Revitalizing the United Nations for Human Rights, Peace and Development”をテーマとして、6月15日(木)–17日(土)にソウルで開催されます。

10. 国連大学からのお知らせ

国連大学では、日本の大学院生をアフリカの大学や研究機関に派遣し、修論や博論執筆に必要な現地調査の支援を行う「アフリカでのグローバル人材育成プログラム (GLTP)」の募集を行っています。詳細は、以下のウェブサイトをご覧ください。(募集締切りは4月20日)

https://ias.unu.edu/jp/news/announcements/global_leadership_training_programme_africa2017.html#info

11. 入会と退会の承認および仮承認

2016年10月1日に開催された理事会において、新入会員として下記の4名、退会1名が承認されました。

(新入会員) 荒木順子、帯谷俊輔、佐崎淳子、山下朋子 (以上50音順、敬称略)

2016年10月1日現在、会員数は297名となりました。

また、運営委員会において、新入会員として2名 (小山淑子、野沢麻子、敬称略) が仮承認されました。

12. 会費納入のお願い

2016年度までの会費をご納入下さいますようお願い申し上げます。本学会は会費収入を主な財源として運営されておりますため、皆様のご協力が不可欠です。ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。万一、行き違いの際はご容赦下さい。

なお、会費を2年以上お納め頂いていない場合には、理事会で協議した後に、会員としての資格を失うこととなりますのでご注意ください (日本国際連合学会規約第7条)。会費納入状況については、下記の事務局までメールでお問い合わせください。

また、会費のご納入にはゆうちょ銀行口座 00130-2-87454 (加入者名は「日本国際連合学会」) をご利用ください。

2017年度の会費納入のお願いは5月以降に随時発送いたします。

*** 連絡先にご変更のある方は、事務局 (住所が変更されています) までお知らせ下さい。***

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155

関西学院大学国際機関人事センター内

日本国際連合学会事務局

E-mail jauns2013☆gmail.com

(☆を@に変えてご対応ください)

日本国際連合学会 (JAUNS) ニュースレター 2016年度第2号: 2017年3月発行 広報委員会 (秋月弘子)